

令和 2 年 6 月 5 日現在

機関番号：12612

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2019

課題番号：16K13559

研究課題名（和文）近代日本における官僚の選抜・昇進構造とセクショナリズムに関する教育社会史的研究

研究課題名（英文）A Study on the Selection and Promotion Structure of Bureaucrats in Modern Japan

研究代表者

武石 典史（TAKEISHI, NORIFUMI）

電気通信大学・情報理工学域・教授

研究者番号：00613655

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、近代日本における文官と武官を「試験・選抜・昇進」の諸側面から分析することをおして、明治中期に確立した人材選抜・配置のありかたが、大正後期以降に進展した官庁統合システムの動揺・解体にいかなる影響を与えたのかを解明した。その作業をおして成績・業績主義による集団形成と官僚制セクショナリズムとの関係性を捉える枠組みを考察しつつ、政治力学・社会変動・専門職の三者をどこまで整合的に、あるいは対立的に関係づけることができるのかを見極めたうえで、教育社会史と政治史の接合の可能性を示唆した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究による、後発効果を念頭においた「官僚の選抜・配分」と「セクショナリズム」とを結びつけたチャレンジングな分析は、西洋産理論に欠けている、より普遍性の高い知見を獲得するための格好の実験場となり、優れた比較材料を提供するものとなった。問いの設定と分析作業が世界中の研究者によって模倣可能であることを考えると、本研究は世界から多くの批判・反響を得る可能性を秘めている。「政治の問題系と結びついた教育社会史的研究」をリニューアルする研究が今後生まれてくることにより、本研究が提示した「見解」「仮説」を洗練していくサイクルがより有効に作られていくことになるであろう。

研究成果の概要（英文）：In this study, through the analysis of the selection and promotion of bureaucrats in modern Japan, we clarified the factors of governmental sectionalism in the Showa era. And we discuss frameworks that analyze the relationship between group formation and bureaucratic sectionalism.

研究分野：教育史

キーワード：官僚 教育社会史 試験 昇進 選抜

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

日本の教育社会史研究は、昭和期の政治システム崩壊を帝大系層と軍事エリート層の出身階層的差異の視点から説明してきた。しかし近年、教育機会の障壁の低さ、文・武官の階層の同質性が示されてきたにもかかわらず、従来の図式の刷新には至れていない。いまだブルデュ的な葛藤モデルを前提としているゆえ、巨視的な力学を見失う隘路に陥っているのである。

この現状の打開には、次の二つのアプローチが不可欠と考えられる。一つは「文官/武官」の二項対立図式ではなく、官僚機構全域で発生したセクショナリズムが統合崩壊の因となったとみるフレーム、もう一つは席次や成績に着目した、選抜・配分メカニズム・組織内集団の形成、の検討である。上記の観点から次の作業を実証的に遂行し、政治史における教育社会史の可能性を模索することが求められている。

2. 研究の目的

本研究は、官僚、すなわち文官と武官を分析対象にしたうえで、省間・部局間争いの当事者諸集団の「業績的」特徴を解明しつつ、選抜・昇進構造と統合システム崩壊との関連性を考察するものである。設定した具体的な課題は以下の通りである。

第一に、大正後期になると「官僚の政党化」、「農商務省の分離」等により官僚機構の秩序が揺らぎはじめた。この時期の文官の人材配分がセクショナリズムに与えた影響を明らかにする。

第二に、同じ頃、陸軍においては関東軍や参謀本部が加速的に「自律化」していく。この動きの背後で人事傾向がどう変化していたのかを、陸軍内の学歴・席次、成績を一つの指標として解明する

第三に、ポスト配分構造・専門性・セクショナリズムの観点から海軍内における集団間対立の分析を目的とした。海軍内では「艦隊派(軍令部)」と「条約派(海軍省)」とに分化するが、この両集団を学歴、留学先、昇進パターンから分析し、「官僚制としての海軍」の動向を考察する。

3. 研究の方法

本研究では、実証性を追求した資料調査に軸足を置き、諸作業を遂行したものである。その具体的な作業とは、第一に公文書館、防衛研究所等での一次資料の収集・整理、第二に新聞・雑誌記事における文官・武官の動向の抽出、第三に収集資料をデータベース化しながら分析を進めるというものである。

個票化した文官・武官のデータの量的分析に加え、自伝、回顧録、先人が実施したヒアリング調査を広く渉猟した丹念な質的考察をとおして、政治学、歴史学、教育社会学といった諸学からの批判に耐えうる実証的かつ説得的な見解の提示を目指すものである。

4. 研究成果

本研究は、徹底した資料分析をもとに「成績主義による選抜と配分」という教育社会史的な視点と「官僚のセクショナリズム」という政治史的テーマを架橋しつつ、大正後期以

降における統合システムの動揺過程を考察しようとする冒険的プロジェクトである。方法的には個票化した文官・武官のデータの量的分析に加え、自伝、回顧録、先人が実施したヒアリング調査を広く渉猟した丹念な質的考察をとおして、政治学、歴史学、教育社会学といった諸学からの批判に耐えうる実証的かつ説得的な見解の提示を目指すものである。

まず、本研究の実証性を確実なものとするため、文官、武官のデータベースの充実をはかった。

文官官僚データベースについては、まず、戦前期官僚制研究会編『戦前期日本官僚制の制度・組織・人事』（1981年）および、秦郁彦編『日本官僚制総合事典』（2001年）をもとに高文試験順位と入省先を整理した。それをふまえて、大学時代の成績等は、『東京帝国大学一覧』、『京都帝国大学一覧』をたよりに、また入省後の異動・動向については、内閣印刷局『職員録』（1886年～1943年の各年版）を丹念に追ひ、諸種の情報をつなぎ合わせ全高級官僚を個票化した。

武官データベースに関しては、『官報』で公表された軍諸学校の入校・卒業席次と、『停年名簿』で示された陸軍、海軍の全現役将校の序列を丁寧に照合する作業から着手した。そして、陸軍関係は『陸軍省大日記』（防衛研究所所蔵）、海軍関係は『公文備考』（同所蔵）などの公文書資料をすり合せつつ、成績・経歴・人事を横断した人事データベースを作成した。

第一に、上記データベースをもとに、明治中期から昭和初期にかけて文官官僚の採用・昇進パターンがどのように変容していたのかを検討したうえで、大正後期に生じはじめた官僚組織内の諸集団の業績的特徴を明らかにした。それをふまえて、当該時期のセクショナリズムの力学の考察を試みた。「大卒席次・高文席次」と「採用省庁および配属部署」の関係性、「本省課長・局長以上ポストの歴任」などの相関性を分析し、突出した部局や集団の特徴を明らかにした。さらには回想録、新聞・雑誌記事をもとに質的な面から上記の分析結果を裏付けた。並行的に、それらの資料内における「専門職」をめぐる言説を整理し、「官僚の『専門職』認識の高まりが分化を生み、セクショナリズムが強まった」との仮説を提示した。

第二に、人材配分の傾向と大正末期頃から陸軍で進行する権力の分化とが、どのような関係にあったのかという点を検討した。データベースを分析の中心に据え、回顧録、新聞・雑誌記事で補いながら、「陸軍内の学歴主義」と「諸ポストの階層性」との対応性確立が、相互の信頼と抑制のシステムを崩壊させていく過程の解明を試みた。

第三に、「海軍における専門性と集団形成」を検討した。海軍兵学校の卒業席次および海軍大学校卒業の経歴が、その後のポスト配分や昇進にどう影響したのか、さらには海軍部内における下克上やセクショナリズムの要因になりえたのかについて考察した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 武石典史	4. 巻 100
2. 論文標題 官僚の選抜・配分構造：二つの席次への着目	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 教育社会学研究	6. 最初と最後の頁 265-284
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 武石典史	4. 巻 11
2. 論文標題 近代東洋の人材養成：西洋文明の受容	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育社会学研究	6. 最初と最後の頁 10-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 武石典史	4. 巻 12
2. 論文標題 非西洋後発国の官僚：文官と武官	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人間科学研究	6. 最初と最後の頁 32-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Norifumi Takeishi	4. 巻 36 (2)
2. 論文標題 Social Aspects of Military Elites in Japan in the Early Twentieth Century	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Japanese Studies Journal	6. 最初と最後の頁 100-125
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武石典史	4. 巻 14
2. 論文標題 大正期の高等教育改革: 入試制度とカリキュラム	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人間科学研究	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----